

「歯周病」と「糖尿病」の悩ましい関係



歯周病は、歯周病菌という菌が歯の周囲にある歯肉、セメント質、歯根膜、歯槽骨などの組織をむしばんでしまうことによって起きる病気です。

始まりは歯肉の炎症から

歯と歯茎の間には、わずかな隙間（歯肉溝）があります。ここには歯周病菌がつきやすく、やがて歯周病菌の塊である歯垢（プラーク）が形成されます。

プラークを放置すると、歯肉に炎症が起こり、歯周ポケットができます。この最初の段階を歯肉炎といいます。これをほっておくと、歯を支える歯槽骨までもが溶かされてしまいます。この段階を歯周炎といい、重度になると歯が抜けてしまうことがあります。

ました。特に歯周病と糖尿病は、お互いが影響を及ぼし合う関係にあります。

実際、歯周病である糖尿病患者さんが歯周病の治療を受けたところ、血糖値が下がったといった報告がいくつも出されています。

また、糖尿病の治療が歯周病にも良い影響を与える報告も出ています。たとえば、歯周病の症状の一つに歯肉の出血があります。糖尿病の治療前には多くの部位で出血していたのが、糖尿病の治療を始めてから半年後には出血部位が減ったことが報告されています。

歯周病と糖尿病は互いに影響

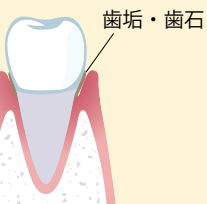
歯周病はただ単なる歯の病気というだけでなく、いろいろな病気と関連することがわかってき

歯周病と糖尿病の悩ましい関係。丁寧なブラッシングや定期歯科検診によって歯周病を解消する、あるいは血糖コントロールをすることで、図のようなプラスの関係が生まれます。

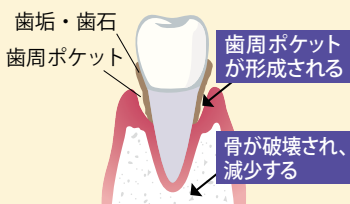
歯周病の進行の様子



健康な歯周組織



歯肉炎



歯周炎

歯周ポケットが形成される
骨が破壊され、減少する

糖尿病

糖尿病
コントロールの改善



歯周病

歯周病原性
細菌性因子の除去
(歯周病の治療)



相互関係

